

事務事業名	小中学校における小笠原流礼法推進事業		所属部局	教育委員会	単位番号	2013-900104				
	□ 実施計画事業		所属課室	南アルプス教育推進課	課長名	飯窪 俊貴				
			所属担当	教育指導担当	担当者名	内藤 大輔				
基本政策	V	個性と文化を育む都市づくり	予算科目	会計	名称	款	項	目	細目	細々目
政策	23	学校教育の充実	事業区分	01	一般	10	01	02	020	96
施策	36	「生きる力」を育む学校教育の推進		<input type="checkbox"/> 国の制度による義務的事業	<input type="checkbox"/> 施設等維持管理事業		<input type="checkbox"/> 市の制度による義務的事業		<input type="checkbox"/> 補助金交付事業	
事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始年度 25 年度) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 ( ~ 年度)			法令根拠	<input checked="" type="checkbox"/> 市の制度による義務的事業 <input type="checkbox"/> その他の事業 <input type="checkbox"/> 義務化されている協議会等の負担金					
事務事業の概要	事業の内容・・・期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載 小笠原流礼法を伝承し、ふるさとを愛し礼儀正しく、たくましく、世界に羽ばたく「南アルプスの子」を育成する。			事業費の主な内訳 (26年度 決算見込)						
				項目(細節)	金額(千円)	項目(細節)	金額(千円)			
				賞金	2,335					
			報償費	50						
			消耗品費	65						
						計	2,450			

1 現状把握(DO)

(1) 事務事業の目的と目標

① 活動	26年度活動内容 小中22校の道徳授業において、小笠原流礼法を児童生徒に教える。 小中学校の先生を対象に、歴史や礼法についての学習会を行う。	⇒	⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)数字は記入しない	名称	単位
27年度活動予定			ア	各校での授業回数	回
			イ	全体研修会・体験講座の参加人数	人
② 対象(この事務事業は誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	市内全児童・生徒及び教職員	⇒	⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)数字は記入しない	名称	単位
			ア	市内児童生徒数	人
			イ	市内教職員数	人
③ 意図(この事務事業により対象をどのような状態にしていけるのか、どのように変えるのか)	この土地に伝わる小笠原流礼法を学ぶことにより、ふるさとを愛し、礼儀正しい作法を身につける。 また、相手を思いやる心や気持ちを身につけ、豊かな心の育成を推進する。	⇒	⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)数字は記入しない	名称	単位
			ア	児童生徒	人
			イ	教職員	人
④ 上位目的(どのような結果に結び付けるのか)	小笠原流礼法の体験を通して、相手を思いやる気持ちやふるさとを愛する児童生徒が育成される。	⇒	⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標)数字は記入しない	名称	単位
			ア	児童アンケート・感想による評価等	%
			イ	教職員アンケート・感想による評価等	%

(2) 事業費・指標の推移

年間トータルコスト	事業費	財源内訳	単位	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	最終	年度
				(決算・実績)	(決算・実績)	(決算見込・実績)	(予算・目標)	(計画・目標)	(計画・目標)	(トータルコスト・目標)	
		国庫支出金	千円								
		県支出金	千円								
		地方債	千円								
		その他	千円								
		一般財源	千円		2,739	3,061	2,545	2,545	2,545		
		事業費計(A)	千円	0	2,739	3,061	2,545	2,545	2,545	0	
	人件費	正規職員従事人数	人		2	2	2	2	2		
		延べ業務時間	時間		50	50	50	50	50		
		人件費計(B)	千円	0	228	228	228	228	228	0	
		(A)+(B)	千円	0	2,967	3,289	2,773	2,773	2,773	0	
	活動指標	ア	回		2.0	2.0	2.0	2.0	2.0		
		イ	人		170.0	170.0	170.0	170.0	170.0		
		ウ									
	対象指標	ア	人		6,900.0	6,900.0	6,900.0	6,900.0	6,900.0		
		イ	人		550.0	500.0	500.0	500.0	500.0		
		ウ									
	成果指標	ア	人		6,900.0	6,900.0	6,900.0	6,900.0	6,900.0		
		イ	人		500.0	500.0	500.0	500.0	500.0		
		ウ									
	上位成果指標	ア	%								
		イ	%								

(3) この事務事業を取り巻く状況(対象者・社会状況等)の変化、市民意見等

① この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか?	平成25年で地域ふれあい道徳教育推進事業の指定が10年を迎え、新たに「南アルプス教育」の推進として地域に古くから伝わる小笠原流礼法の体験を通して、相手を思いやる気持ちや心、ふるさとを愛する気持ちを考える
② 事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べてどう変化しているか? また、今後の予測は?	全国的に課題となっているいじめや不登校などの生徒指導上の問題は、道徳教育の充実が不可欠だとされている。特に平成19年には山梨県がいじめワーストとなった。そのような背景の中で、相手を思いやる気持ちや
③ 事務事業に対して関係者(市民、事業対象者、議会等)からどんな意見・要望が寄せられているか?	小笠原流礼法を取り入れた卒業式や授業が各校でなされ、地域の方や教職員からも、その必要性が確認された。

(4) 改革改善の取り組み状況

① 改革改善の取り組み実施は?	<input checked="" type="checkbox"/> 取り組みしている ⇒【内容!】 <input type="checkbox"/> 取り組みしていない ⇒【理由!】
② これまでの改革改善の取り組み状況・経過(取り組みしていない場合はその理由)	各校の各学級ごと道徳教育で2時間ずつ小笠原流礼法師範を派遣し、授業の中で取組を進めている。また、卒業証書授与や各教科にも派遣している。
③ H 26年度に実施した改革改善の内容	2年目に入り、活動が重ならないように、系統的になるよう活動内容を考えて。授業を実施する中で、打合せの方法などFAX用紙等に改善をくわえた。

事務事業名	小中学校における小笠原流礼法推進事業	所属部	教育委員会	所属課	南アルプス教育推進課
-------	--------------------	-----	-------	-----	------------

## 2 評価(Check1)担当者による事後評価(複数年度事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？意図が上位目的に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 結びついていない(見直し余地がある) ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている ⇒【理由↓】 南アルプスの未来を担う人づくりを目指す本市にとって、子ども達の豊かな心、ふるさとを愛する心を育てることは何より大切である。
	② 公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？ 民間やNPO、市民協働に移行することは可能か？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ⇒【理由↓】 人づくりにとって教育が果たす役割は大きい。子ども達の心を育てるために小笠原流礼法発祥の地である市内各校に礼法の教えや体験を行うことで特色ある教育に繋がると同時に、公教育で行う必要性は高い。 事務事業の全部もしくは一部を外部に移行することが可能である。 <input checked="" type="checkbox"/> 民間・NPO <input type="checkbox"/> 市民協働
	③ 維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 適切である ⇒【理由↓】 道徳は教科化に向けて着目されている。本市の特色を活かした心の育成を進める上で、小笠原流礼法は適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 今後、工夫や努力をする事で、事務事業の目的に向けて現状よりも成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	<input type="checkbox"/> かなり向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 <input checked="" type="checkbox"/> ある程度向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 <input type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由↓】 本市の全学級で小笠原流礼法を行い、2年目は重なりなども考えなければいけない。成長段階に見合ったカリキュラムをつくっていくことが大切である。また小笠原流宗家との連絡も密にしていかなければいけない。
	⑤ 類似事業との統合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることはできるか？	<input checked="" type="checkbox"/> 類似事務事業がある ⇒(類似する事務事業の名称を記入！) <input checked="" type="checkbox"/> 統合・連携ができる ⇒【理由と具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 <input type="checkbox"/> 統合・連携ができない ⇒【理由↓】 <input checked="" type="checkbox"/> 類似事務事業がない
効率性 評価	⑥ 休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	<input type="checkbox"/> 影響なし <input checked="" type="checkbox"/> 影響あり ⇒【理由と影響の内容↓】 人づくりの最も大切である心を育てる教育に繋がらない。相手を思う気持ちや心の育成ができにくい。生徒指導上の課題が増加を防いでいる。 <input type="checkbox"/> 休止・廃止ができる <input checked="" type="checkbox"/> 休止・廃止できない ⇒【理由↓】 事業の休止により、豊かな心の育成、ふるさとを愛する郷土愛の育成に繋がらなくなる。
	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費(コスト)を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由↓】 年々事業が浸透してきているが、夏の学習会等も謝礼がぎりぎりである。小笠原流の新しい活動(ふろしき・扇子など取り揃える)を取り入れるとなると財政的に苦しい状況がある。
	⑧ 人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？(事業のやり方の見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由↓】 小笠原流礼法師範については、謝金から臨時職員として授業づくりに関わってもらう方向で変更した。そのため、人件費は増加する。
公平性 評価	⑨ 受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由↓】 本事業は市内全小中学校の児童生徒が対象となっており、公平であると言える。市として推進するじぎょうであり、自己負担を求めるものではない。

## 3 評価(Check2)担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括(事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
① 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ② 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ③ 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④ 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	道徳教育が教科化に向けて重要性が高まる中、本市においても心の教育の育成は喫緊の課題である。本市を起源とする小笠原氏・小笠原流礼法を学ぶことは郷土を愛する心につながったり、他人を思いやる心につながったりするので、事業を継続させながら、事業をじゅずする

## 4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性(Check1の結果から定める)・・・複数選択可	(3) 改革・改善による方向性																					
<input type="checkbox"/> 廃止(目的妥当性①、②、③の結果) <input type="checkbox"/> 事業統合・連携(有効性⑤の結果) <input type="checkbox"/> 公平性改善(公平性⑨の結果) <input type="checkbox"/> 休止(目的妥当性①、②、③の結果) <input checked="" type="checkbox"/> 成果向上(有効性④の結果) <input type="checkbox"/> 現状維持(全評価項目で適切) <input type="checkbox"/> 必要性検討(目的妥当性①、②、③の結果) <input type="checkbox"/> コスト削減(効率性⑦、⑧の結果) <input type="checkbox"/> 終了	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <th colspan="3">コスト水準</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果水準</th> <th>向上</th> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input checked="" type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> </table> ※ 廃止・休止の場合は記入不要			コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	維持	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	低下	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
				コスト水準																		
		削減	維持	増加																		
成果水準	向上	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																		
	維持	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																		
	低下	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																		
(2) 改革改善案について 師範との打合せの方法や顕彰会などとの連携の仕方。授業づくりにおける系統化やカリキュラム作成。数値目標を得られるような、評価の工夫。																						
(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策 上記の通り改善に努める。	(5) 事務事業優先度評価結果 平成26年度																					
	<table border="1"> <tr> <td>成果優先度評価結果</td> <td>③</td> </tr> <tr> <td>コスト削減優先度評価結果</td> <td>⑪</td> </tr> </table>	成果優先度評価結果	③	コスト削減優先度評価結果	⑪																	
成果優先度評価結果	③																					
コスト削減優先度評価結果	⑪																					